**NLP2021 Wordテンプレートサンプル文書**

言語太郎 言語花子

言語大学処理学部

{taro, hanako} @ example.com

**1 はじめに**

本テンプレートは，LaTeX版NLP2021文書クラスに準拠して定義されたWordテンプレートである．NLP2021より、賞選考コストの削減の観点から、投稿論文のフォーマットを規定する．そのため、規定のフォーマットを満たす文書クラスファイル・テンプレートを配布する．この文書自体が当該文書テンプレートを用いて作成されている．よって，この文書を参考に投稿論文の原稿を作成することを推奨する．

**1.1 基本設計**

LaTeX版NLP2021文書クラスはW3Cにより策定されている『日本語組版の要件』 [1] に準拠することを目指すjireqクラスをベースにしている．ただし，本テンプレートでは紙面スペースの都合上，多くの余白値をかなり詰めるように設定している．例えば，行間はのようにルビを振れる最小限の余白に設定してある．

　NLP分野の論文では，単純なテキストのみならず，しばしば数式

や箇条書き

* 第一の項目
* 第二の項目

といった構造も用いられるが，LaTeX版ではこれらもよく知られた文書クラス（例えばjsarticle等）と同様のシンタックスで利用できる．

　本文書クラスの仕様の詳細についてはREADME.mdを参照されたい．

**1.2 Word版テンプレート**

Word版テンプレートは，前述のLaTeX用に定義されたNLP2021文書クラスに準拠して作成されている．Word版でも，数式や箇条書きなどはWord上の機能を用いて挿入することができる．

LaTeX版文書クラスでの禁止事項およびWord版で投稿される論文が満たすべき規定については，2節および3節に詳述する．

**1.3 クレジット**

LaTeX版のクラスファイル（nlp2021.cls）は，東京大学宮尾研究室朝倉卓人氏のご厚意により年次大会用に提供していただいた．

また，Word版のテンプレートはLaTeX版のフォーマットに従って理化学研究所吉野幸一郎氏により作成していただいた．

**2 投稿論文の必須要件**

論文の体裁に関する規定には，必ず満たさなければいけない「必須要件」と，賞選考のために満たすことを前提とする要件の二種類がある．本節では，必ず満たす必要のある「必須要件」について述べる．

1. 原稿は本文4ページ以内，本文と参考文献を含めて5ページ以内，付録は独立した1ページ以内
2. 各ページの余白は上下3cm，左右2cm以上

1に関しては，本文と参考文献を合わせて最大で5ページの原稿を投稿することができるが，参考文献がどんなに少量であったとしても，5ページ目に本文が入ってはいけないことを意味する．また，本文および参考文献とは別に，著者が望む場合は付録（Appendix）[[1]](#footnote-1)を1ページ分，原稿につけることができる．つまり，最大で6ページ分の原稿を投稿することができる．

2に関しては，投稿論文に含まれる全てのページに対して余白の規定を満たす必要がある（付録も含む）．

本節記載の1および2の要件を満たしていない場合は，発表取り消しとなる可能性がある．投稿時には十分に気を付けて投稿すること．軽微かつ容易に修正可能な場合は，プログラム委員会で予告なく原稿を修正する可能性がある（その場合は発表取り消しにはならない）．

**3 投稿論文の体裁**

2節冒頭で述べた通り，論文の体裁に関する規定には必ず満たさなければいけない「必須要件」と，賞選考のために満たすことを前提とする要件の2種類がある．本節では，「賞選考のために満たすことを前提とする要件」を述べる．

賞選考コストの削減の観点から、投稿論文のフォーマットを規定する．その詳細を本節に記載する．規定フォーマットに明らかに従っていない場合は、**予告なく優秀賞・若手奨励賞などの一部の賞の選考過程から除外されることがある．**

ただし、賞選考のコスト削減の観点から生じた施策なので、本節に記す規定フォーマットを満たさない原稿であっても、前節の必須要件が満たされていれば**発表自体が取り消されることはない．**

**3.1 本文について**

**LaTeX版**　文書クラスが定義する以下についての変更は禁止とする．

* 用紙サイズ
* フォントサイズ
* 欧文フォント（利用するフォントによって文字数に異なりが出るため）
* 余白の大きさ
* 行間，行数，文字数（特にbaselinestretchを変更しないこと）

**Word版**　LaTeX版で定義された文書クラスと同等のテンプレートを実現するため以下のような定義を行っている．これらを変更することは禁止とする．

* 用紙サイズはA4，組版は二段組とする．
* フォントサイズは以下のように定める．
  + 論文表題: 16pt
  + 著者名: 10-11pt
  + 大見出し: 14pt
  + 中見出し: 12pt
  + 小見出し: 11pt
  + 本文: 10pt
  + その他本文中の数式などの文字: 10pt
  + 図表等のキャプション: 10pt
  + 上記以外のクラス，例えばアルゴリズムなどを記述する場合の文字: 10pt以上
* 論文の余白は以下の通り定める．
  + 上下: 3cm
  + 左右: 2cm
* 行数は45行，各行の文字は全角23文字
* ルビを振る場合，行間を固定値とし，その値を14.9ptとする．設定する場合，「段落」🡪「インデントと行間の変更」🡪「行間」から指定する．

また、フォントについては以下のように設定している．

* タイトル、見出しのフォントはMSゴシック+Arial
* 本文のフォントはMS明朝+Times New Roman、強調はMSゴシック

**3.2 Writing in English**

This paragraph shows an English sample. There is no problem to prepare your draft in English. If you write on LaTeX, please use the distributed style file with "english" option.

\documentclass[

platex, dvipdfmx, english]{nlp2021}

Any changes on the style file (.cls) are prohibited. If you write on Microsoft Word, please use the distributed sample file without changing its layout. Using “Times New Roman” is suggested.

　なお英語での原稿作成について，LaTeX版の場合は配布するスタイルファイルを用いて記載すれば問題ない．Word版の場合は配布テンプレートを用いて，レイアウト等については変更しないこと．本文は，スタイルファイルで規定される通りTimes New Romanで記載のこと．

**3.3 図，表，例文等**

　図，表，例文等，本文とは独立に表記される領域における文字サイズも，基本的には本文と同じ10ptを推奨する．

ただし，図や例文などは，別のツールで作成したオブジェクトを原稿に埋め込むことなどを鑑みると，中の文字の正確なサイズを知るのは難しいので図中のフォントサイズは規定しない（10pt以下の文字サイズがあっても規定違反とはしない）．ただし，A4印刷で読める大きさは担保するように留意すること．

表に関しても，情報を多く記載する必要性がある場合を鑑み，\small(9pt)相当のフォントサイズまでは必要であれば利用しても良いこととする．また， \tabcolsepなどを使って各セルの横方向を詰めることは許容する．ただし，詰めすぎて読みにくくならないように留意すること．

**3.4 参考文献**

　本文の直後に、**参考文献**のセクションを設け、本文の中で参照した参考文献の詳細を列挙する.本文中の参照は [1] や [2, 3] といった数字で表記し、その 数字に合わせて参考文献を記載することを推奨する.ただし，参考文献セクションの体裁については厳密に指定しない.著者の裁量で独自の参考文献のスタイルを用いることができる.年次大会の推奨設定は以下とする.

\bibliographystyle{junsrt}

\bibliography{j\_yourrefs}

また、参考文献が 1 ページに入りきらない場合、参考文献は独自のスタイルを用いて良いので，フォントサイズを小さくするなどして対応すること.

\renewcommand{\bibfont}{\footnotesize}

LaTeX 版の本文で参考文献を参照する際には、 \cite{Article\_01} といった形式で参照する.著者の名前は、略記はせずにフルネームを記載することを推奨する.

　以下，参照の参考例である．

* 論文誌の参照例 [2]
* 本の参照例 [3]
* 国際会議の参照例 [4]
* 技術報告の参照例 [5]
* Webページの参照例 [6]

　Word版では「参考資料🡪引用文献の挿入」を利用することを推奨する．引用の方法は，ISO 690: 参照番号を利用する．ただし，適切に番号の対応が取られていればWord版引用文献の機能を利用することは必須ではない．

**3.5 脚注**

　補足情報を入れるために脚注（footnote）を利用することができる[[2]](#footnote-2)．脚注はページの下部に9ptで表記する．また，脚注は論文全体で1から番号をつけ，閉じ括弧などの記号を伴って，どの脚注がどこに対応するか明確にわかるようにする．脚注は本文と水平線（横線）で分割される．[[3]](#footnote-3)なお，Word版においては「参考資料🡪脚注の挿入」から脚注を利用することができるが，本テンプレートが利用している通り，脚注箇所を明確にするためアラビア数字以外の文字を脚注記号として利用することを推奨する．

**3.6 付録（Appendix）**

　本文とは別に付録（Appendix）を1ページつけることができる．付録は，追加の実験結果や詳細な実験設定，式の証明などを著者が記載したい場合に利用することを想定しており，基本的には付録をつける必要はない．

　付録に関しては，本サンプルで利用している年次大会指定のフォーマットに従う必要はない．ただし，必須要件に入っている上下左右の余白に関しては規定内に収める必要がある．余白内の本文領域に関しては，どのような形式で付録を作成するかは著者の裁量による．

　付録に記載の内容は，賞選考時には考慮されない．つまり，賞選考の審査員は賞選考時に付録を読まないことを前提としている．よって，本文から付録を参照する際には，その参照がなくても本文中で議論が完結するような書き方が必要である．逆に付録の情報に基づいた議論が本文中であったとしたら，それは審査で不利に判断される可能性がある．

　投稿時には，本文および参考文献に続けて付録を配置し，単一のPDFとして投稿する必要がある．また，付録は付録だけで独立した1ページで構成する．つまり，本文や参考文献のページ数が上限に達していなくても，付録は独立した1ページが上限となる．単一の原稿として作成している場合は，付録の直前で必ず改ページをおこない，本文や参考文献

とは独立したページとなるように注意する．

**4 参考情報**

本節には，その他，原稿執筆に有益と考えられる情報を記す．

**4.1 図の挿入**

図のキャプションは図の下につける．図1は実際の挿入例である．

**LaTeX版**　図の挿入は通常graphicxパッケージによって行う（図1参照）．クラスオプションにワークフロー（dvipdfmx等）を指定していれば，各パッケージを読み込む際に何度も同じオプションを指定する必要はない．

**Word版**　図の挿入は「挿入🡪図の機能」によって行う．図を挿入する場合，挿入した図を選択した際に表示される「図ツール」の「文字列の折り返し」から，「上下」を利用する．また，「参考資料」から「図表番号の挿入」を選択し、図表番号と同時にキャプションを付与する．

表 1　適当な表

|  |  |
| --- | --- |
| 日本語 | Japanese |
| 英語 | English |

**4.2 表の挿入**

図とは異なりキャプションは表本体の上に付ける．表1は実際の挿入例である．表2は表1のフォントサイズを9ptに変更した表である．

**LaTeX版**　表は\begin{table}…\end{table}の環境を使う．

**Word版**　表組みもWordの「挿入」から表を追加できる．また，図と同様に「参考文献」から「図表番号の挿入」を選択し，図表番号と同様にキャプションを付与する．なお，Word版においてはフォントサイズを9ptとしてもあまり大きく余白を詰めることはできない．

表 2　適当な表（smallバージョン）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 設定 | データ1 | | | データ2 | | |
| Pre | Rec. | F1 | Pre. | Rec. | F1 |
| config1 | 23.04 | 30.11 | 25.60 | 23.04 | 30.11 | 25.60 |
| config2 | 23.04 | 30.11 | 23.04 | 23.04 | 30.11 | 23.04 |

4.5 Overleaf



図 1　何らかの図

原稿執筆時にOverleafを利用して作成する人が多いと思われるが，一つのツールの使い方を年次大会で公式にサポートはしない．ただし，利用時のTIPSとして，年次大会配布のファイルを置いただけでは日本語環境が整っていないという意味でコンパイルできない場合がある．その場合は，latexmkrcを用意し，そこに日本語用の設定を記載する．詳細はインターネットで検索すれば多くの情報を見つけられるので，そちらに譲る．コンパイラはLaTeXを選択する．

**5 ダミーテキスト**

長さのある文章を組版したときの様子を確認するためのダミーテキストである．

**5.1 サブセクション1**

このサブセクションはダミーテキストである．

**5.1.1 サブサブセクション**

**パラグラフ**　ダミーテキストである．

**6 おわりに**

　投稿論文に関する規定には、必ず満たさなければいけない必須要件(2節)と、賞選考のために満たすことを前提とする要件(3節)の2種類がある．

必須要件は、論文のページ数と余白に関する規定である．必須要件を満たさない論文は発表取り消しの場合もある．一方、賞選考のために満たすことを前提とする要件は、賞選考コスト削減が主な理由であり、満たされていなくても発表が取り消されることはない．ただし、優秀賞・若手奨励賞などの一部の賞の選考過程から除外されることがある．

年次大会論文投稿用スタイルファイルを使った執筆がどうしても自己解決できない場合は、プログラム委員会まで問い合わせること．

# 参考文献

1. **W3C日本語組版タスクフォース.** 日本語組版の要件（日本語版）. 出版地不明 : https://www.w3.org/TR/jlreq/, 2020-11閲覧.

2. Title of the article. **LastNameFirstName.** 1, 出版地不明 : Journal of Natural Langauge Processing, 2006年, 第 13 巻. 251-258.

3. **LastNameAFirstNameA , LastNameBFirstNameB.** Title of The Book. 出版地不明 : The Association for Natural Langauge Processing, 1988.

4. 論文タイトル. **著者氏著者名.** 出版地不明 : プロシーディングスの名前, 1986.

5. **著者氏著者名.** 技報タイトル. 出版地不明 : Technical report, 1985.

6. —. ホームページタイトル. (オンライン) (引用日: 2017年1月1日.) www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/NLP/.

付録のサンプル

**A 付録**

「箆棒め、うちなんかいくら大きくたって腹の足しになるもんか」

彼は大に肝癪に障った様子で、寒竹をそいだような耳をしきりとぴく付かせてあららかに立ち去った。吾輩が車屋の黒と知己になったのはこれからである。

その後吾輩は度々黒と邂逅する。邂逅する毎に彼は車屋相当の気焔を吐く。先に吾輩が耳にしたという不徳事件も実は黒から聞いたのである。

或る日例のごとく吾輩と黒は暖かい茶畠の中で寝転びながらいろいろ雑談をしていると、彼はいつもの自慢話しをさも新しそうに繰り返したあとで、吾輩に向って下のごとく質問した。「御めえは今までに鼠を何匹とった事がある」智識は黒よりも余程発達しているつもりだが腕力と勇気とに至っては到底黒の比較にはならないと覚悟はしていたものの、この問に接したる時は、さすがに極りが善くはなかった。けれども事実は事実で詐る訳には行かないから、吾輩は「実はとろうとろうと思ってまだ捕らない」と答えた。黒は彼の鼻の先からぴんと突張っている長い髭をびりびりと震わせて非常に笑った。元来黒は自慢をする丈にどこか足りないところがあって、彼の気焔を感心したように咽喉をころころ鳴らして謹聴していればはなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近付になってから直にこの呼吸を飲み込んだからこの場合にもなまじい己れを弁護してますます形勢をわるくするのも愚である、いっその事彼に自分の手柄話をしゃべらして御茶を濁すに若くはないと思案を定めた。そこでおとなしく「君などは年が年であるから大分とったろう」とそそのかして見た。果然彼は墻壁の欠所に吶喊して来た。「たんとでもねえが三四十はとったろう」とは得意気なる彼の答であった。彼はなお語をつづけて「鼠の百や二百は一人でいつでも引き受けるがいたちってえ奴は手に合わねえ。一度いたちに向って酷い目に逢った」「へえなるほど」と相槌を打つ。黒は大きな眼をぱちつかせて云う。「去年の大掃除の時だ。うちの亭主が石灰の袋を持って椽の下へ這い込んだら御めえ大きないたちの野郎が面喰って飛び出したと思いねえ」「ふん」と感心して見せる。「いたちってけども何鼠の少し大きいぐれえのものだ。こん畜生って気で追っかけてとうとう泥溝の中へ追い込んだと思いねえ」「うまくやったね」と喝采してやる。「ところが御めえいざってえ段になると奴め最後っ屁をこきゃがった。臭えの臭くねえのってそれからってえものはいたちを見ると胸が悪くならあ」彼はここに至ってあたかも去年の臭気を今なお感ずるごとく前足を揚げて鼻の頭を二三遍なで廻わした。吾輩も少々気の毒な感じがする。ちっと景気を付けてやろうと思って「しかし鼠なら君に睨まれては百年目だろう。君はあまり鼠を捕るのが名人で鼠ばかり食うものだからそんなに肥って色つやが善いのだろう」黒の御機嫌をとるためのこの質問は不思議にも反対の結果を呈出した。彼は喟然として大息していう。「考げえるとつまらねえ。いくら稼いで鼠をとったって――一てえ人間ほどふてえ奴は世の中にいねえぜ。人のとった鼠をみんな取り上げやがって交番へ持って行きゃあがる。交番じゃ誰が捕ったか分らねえからそのたんびに五銭ずつくれるじゃねえか。うちの亭主なんか己の御蔭でもう壱円五十銭くらい儲けていやがる癖に、碌なものを食わせた事もありゃしねえ。おい人間てものあ体の善い泥棒だぜ」さすが無学の黒もこのくらいの理窟はわかると見えてすこぶる怒った容子で背中の毛を逆立てている。吾輩は少々気味が悪くなったから善い加減にその場を胡魔化して家へ帰った。この時から吾輩は決して鼠をとるまいと決心した。しかし黒の子分になって鼠以外の御馳走を猟ってあるく事もしなかった。御馳走を食うよりも寝ていた方が気楽でいい。教師の家にいると猫も教師のような性質になると見える。要心しないと今に胃弱になるかも知れない。

1. 付録に関しては3.6節を参照のこと． [↑](#footnote-ref-1)
2. 脚注の例である． [↑](#footnote-ref-2)
3. ツールを参照する際に脚注にURLのみで参照する事例が散見されるが，ツールに紐づく文献などを積極的に参考文献として追加することを推奨する． [↑](#footnote-ref-3)